

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2022年度)

専門分野区分	経営学	科目名	経営学応用			科目コード	T1850B1			
配当期	後期	授業実施形態	通常			単位数	4 単位			
担当教員名	高岸 義	履修グループ	2I(BI/BO)			授業方法	講義			
実務経験の内容	大学院商学研究科修士課程で学位取得後、会計事務所で約2年間、経理を中心に顧問先の経営支援業務に従事した。その後、大学院商学研究科博士課程で単位取得、研究生を経て、大学、専門学校で約25年、講師としてマーケティング及び経営学分野の科目を担当している。講義においては、理論的な内容だけではなく実務経験を活かして、実践的な内容も含め教授する。									
学習一般目標	正確に経営学を理解することにより、現実の経営問題をより深く考えられる思考力を修得することを目標とする。									
授業の概要および学習上の助言	マネジメントすなわち経営管理を概説するだけではなく、経営計画、経営統制という管理過程の諸要因、さらに経営行動の分析についても具体的に学習し、学問としての経営学を正しく理解することを通して、現実の企業の変化や動きを論理的に考える能力を身につける内容となっている。また、就職や大学編入にも対応している。									
教科書および参考書	「プレステップ 経営学<第2版>」弘文堂、「はじめて学ぶ人のための経営学入門 バージョン2」文真堂ブックス、「日経ビジネス」(プリント配布)									
履修に必要な予備知識や技能	日頃から、新聞や経済雑誌など読む習慣を身につけ、世の中の動向に関心を持って欲しい。									
使用機器										
使用ソフト										
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が到達すべき行動目標								
	1	経営学の基礎用語を説明することができる。								
	1/3	経営における実践的な内容を理解することができる。								
	2	経営学の知識を活用して問題に対応することができる。								
	3/5	講義に意欲を持って取り組むことができる。								
	5	正しい知識を理解し活用することから、就職活動、大学編入試験に自信を持って取り組むことができる。								
達成度評価	評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	学部DP	1.知識・理解	40							40
		2.思考・判断	30							30
		3.態度							10	10
		4.技能・表現								
		5.関心・意欲							20	20
	総合評価割合	70						30	100	
評価の要点										
評価方法	評価の実施方法と注意点									
試験	定期試験期間中に筆記試験を実施する。									

小テスト	
レポート	毎回、簡単な課題を行う。
成果発表(口頭・実技)	課題を発表してもらう。
作品	
ポートフォリオ	
その他	授業への出席、取り組みなどを含め総合的に評価する。

授業明細表

授業回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回	第1週:科目概要説明・営業管理(1)	講義	特になし。適宜指示する。
第2回	第2週:営業管理(2)・意思決定(1)	講義	適宜指示する。
第3回	第3週:意思決定(2)・会計(1)	講義	適宜指示する。
第4回	第4週:会計(2)・財務管理(1)	講義	適宜指示する。
第5回	第5週:財務管理(2)・サプライチェーンマネジメント(1)	講義	適宜指示する。
第6回	第6週:サプライチェーンマネジメント(2)・経営情報(1)	講義	適宜指示する。
第7回	第7週:経営情報(2)・生活を支えている企業	講義	適宜指示する。
第8回	第8週:環境の変化と企業経営・現代の企業社会と経営学を学ぶ意義	講義	適宜指示する。
第9回	第9週:企業はだれが所有し、経営しているのか・企業はなにをめざして活動しているのか	講義	適宜指示する。
第10回	第10週:企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるのか・企業はどのようにして経営し、組織をつくるのか	講義	適宜指示する。
第11回	第11週:情報と意思決定は企業の組織をどのように動かしているのか・企業はどのように競争しあい、そして互いに協力しあっているのか	講義	適宜指示する。
第12回	第12週:企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか・企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか	講義	適宜指示する。
第13回	第13週:企業はどのようにして資本を調達し、資金を運用するのか・企業はどのようにして人材を活用するのか	講義	適宜指示する。
第14回	第14週:課題解決型授業1	遠隔授業 実施時期:5期	適宜指示する。
第15回	第15週:課題解決型授業2	遠隔授業 実施時期:7期	適宜指示する。